茅野市立玉川小学校

令和7年度　学びの充実あと押し事業

「英語で自信をもって伝えたい」～個別支援におけるAI活用の可能性～

実践内容

英語の学習 アウトプット

玉川小「English Day」

茅野

日頃の英語の学習をアウトプット 招いて、ゲームを通じて楽しよう。茅野市玉川小学校で2日、「English Day」があった。6年生4クラス（116人）は、小中一貫校の東部中学校3年（36人）の

提供： 10/8付 長野日報社

【本校の研究】

自己決定しながら取り組む探究的な活動

単元を貫く「問い」や「願い」が生まれる出会い

➡ 外国語・外国語活動においては

【相手意識のある言語活動の設定】

コミュニケーションの目的や場面を明確に設定し、子どもたちのやり取りの内容が、相手意識のある本物のコミュニケーションとなることを目指す

〔・Unit Goalの設定 ・English Day ・English Session 等〕

【AI活用のねらい】やり取りの場面での抵抗感を減らすことを目指す

〇英語でのやり取りに苦手意識がある児童

→どこでも(教室/家)いつでも(授業中/寺子屋タイム等)個別練習ができる

→授業中に自信がない表現を自分で確認ができる

〇コミュニケーションに課題を抱える特別支援学級の児童

→特別支援学級では事前練習で安心感を確保する

【実践の様子① 高学年】

〇正しい発音で物語が進む仕組み

「ちゃんと言ったはずだよ」自分の発音が伝わらず、不満そうだったＡ児

→繰り返す内に「正しい発音ができるようになりたい」という姿勢に変化

〇ＡＩとのやり取りを楽しむ児童

・児童機で使えず、グループ活動に→自信のない児童でも意欲的に活動

・練習であっても、AIが対話相手になることで、自然とPicture bookを手にもち、自ら伝えようとする姿が見られた。思考して表現する → 表現の習得に繋がる

【実践の様子② 特別支援学級】

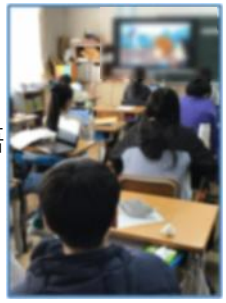
〇自信があるものには挑戦できる。でも…

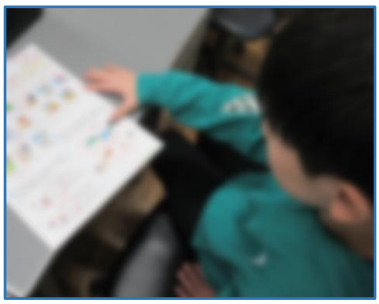
・リスニングは得意だが、やり取りはほぼ参加しないＢ児

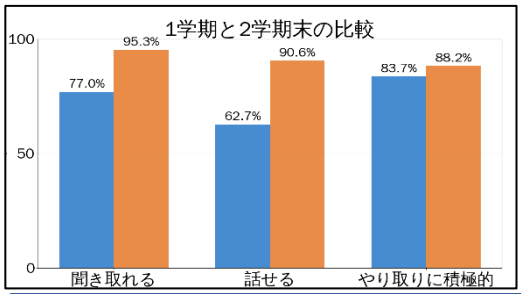
→AIアプリには興味を示すが、AIの応答にわからない単語があると続かない。伝える内容が分かれば参加できる。

・教師の前でも間違えることに対する抵抗が強い。

→AIの使用言語が発達段階に応じた英語の表現になれば、個別練習で力を伸ばす可能性が十分にある。







【アンケート結果から】

◇聞き取れる：１学期 77.0％　→　２学期末 95.3％

◇話せる　　：１学期 62.7％　→　２学期末 90.6％

→聞いたり話したりすることに力がついてきたと実感している児童が多い。

◇やり取りに積極的：１学期 83.7％　→　２学期末 88.2％

→自信をもってやり取りすることには少し不安がある。新しい端末の導入で、個別の取組をさらに増やしていく

成果と課題

成果：自分の学び方や場所を選べる、個別最適な学びの実現が可能。また、児童が安心して参加できる環境づくりという面で、AI活用は児童の自信と意欲を高め、学びの質を向上させる可能性を感じた。

課題：利用できる端末が限定されている。AIの応答に未習表現や難しい単語が含まれ、小学生には理解が難しい。日本語対応は内容にズレが生じる。既習表現をもとに発達段階や学年に応じたやり取りができれば大きな効果が期待できる。